

久留米大学を受診した患者さんへ

「T P F 療法を受けた患者の有害事象と転倒予防の検討」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：2014年(平成26)年4月から2015（平成27）年3月
- 2) 受診科：耳鼻咽喉科、頭頸部外科
- 3) 対象疾患名：頭頸部癌
- 4) 使用する情報：診療情報

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：西8階病棟

研究代表者：看護師 松田 早代

研究分担者：看護師 古賀 真由美

看護師 城崎 清子

看護師 中尾 佐永子

看護師 秋田 真依

看護師 岩崎 美里

2) 研究の意義と目的：医療の現場において入院患者の転倒・転落事故(以下、転倒)は深刻な問題のひとつです。転倒したことで骨折ともなれば、治療に影響したり入院期間が長くなります。当病棟では治療に化学療法を取り入れています。化学療法の副作用には食欲や体力が落ちることがあり、治療してから転倒する患者さんもいます。そこで、過去一年間で化学療法治療(T P F)をうけ転倒した患者さんの体の状態を分析することで、今後の転倒予防対策をたてていきたいと考えています。

3) 研究の方法：過去一年間で化学療法治療(T P F)を受けた患者さんが、治療開始してから、いつ、どのような症状がでているか電子カルテ上の記録から分析していきます。そして分析の結果から転倒予防のために介入していく時期や対策を検討していきます。

4) 研究期間：平成27年8月倫理委員会承認後～平成28年8月

5) 上記の情報の使用を選定した理由：電子カルテに記載されている診療記録から患者さんの治療開始時からの身体症状の変化が分かり、転倒に必要な時期の分析や転倒予防対応策を検討していくことができると考えられます。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：久留米大学病院倫理委員会の承認を得ます。またデータ収集においては匿名化し個人が特定されないようにします。診療情報は鍵のかかる棚内に保管し本研究者ら以外が絶対にみることができないよう厳重に保管します。

7) 研究成果の発表の方法：

日本看護学会にて発表します

日時：平成 28 年 8 月

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

松田 早代 西 8 階病棟 内線番号 5660

住所：福岡県久留米市旭町 67

TEL：0942-35-3311